

病院の理念

長崎北病院の理念は、「Patients First(PF) : 患者さま最優先の医療を行う」です。

病院の特徴

長崎北病院は、急性期から慢性期までの患者さんの診療に総合的に関わる、ベッド数200床のケアミックス病院です。脳卒中、認知症などに代表される神経内科を中心とし、循環器科、呼吸器科、消化器科といった一般内科を広く診療しています。



薬剤師業務

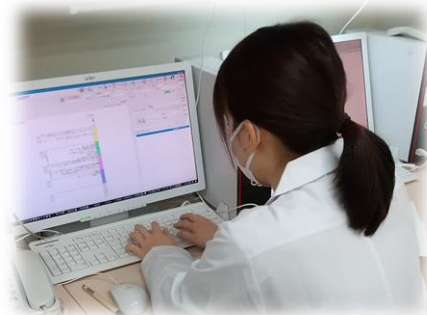
○電子カルテを完全導入しているため、患者さんの病状や、最新の検査データなどが常に確認でき、よりの確な薬物療法の提案が可能です。

○病棟業務に積極的に取り組み、入院時の持参薬の鑑別から、退院後に関わる施設への情報提供まで、病棟担当の薬剤師が患者さんの薬物治療全般に責任をもって関わっています。また、担当病棟を持つことで責任感が生まれるだけでなく、看護師をはじめとする病棟スタッフとの良好な関係を保つことができます。



私たちの仕事

○医薬品の効果や副作用など様々な情報を収集・管理しています。最新情報を医師・看護師などの医療スタッフに定期的に文書などで提供し、薬物治療が適正に行われるようにしています。



○臨床試験中の薬剤(治験薬)を管理し、調剤しています。当院では、様々な種類の治験に参加しており、最新の医療に関わることができます。

○院内の各種活動(栄養サポートチーム(NST)、感染対策チーム(ICT)、褥瘡対策チーム)、糖尿病教室に参加し、他の職種のスタッフと協力しあい、チーム医療の一員として活動しています。それぞれのスタッフが持つ専門性を発揮することで、より良い医療につなげることができるだけでなく、実際に治療計画から関わることで、治療過程を実感することができます。



感染対策チーム



栄養サポートチーム

○医療薬学会など学会発表も積極的に行っており、認定薬剤師、専門薬剤師資格取得にも協力的です。

○ケアミックスの病院の為、急性期、回復期、慢性期の医療について関わるすることができます。また広範囲の業務を体験することで、早期のスキルアップが望めます。

私たちの職場環境と福利厚生

○当院は、長崎市北部近郊の時津地区に立地しており、長崎市中心部へのアクセスも良好です。

○2007年10月に長崎市より新築移転したため、清潔感のある施設で快適に業務にあたる事ができます。

○独身寮も複数あり(ワンルームマンション)、徒歩での通勤も可能です。

○職員用の駐車場も約200台分用意され、通勤距離1km以上であれば車通勤可能です。



○院内に保育園も完備しており、育児中のスタッフにも好評です。

○毎年、職員旅行が実施され、2泊3日、1泊、日帰りと複数のコースから選ぶことができ、職員だけでなく家族連れで参加することもできます。

○夜勤、当直もなく残業もほとんどないため、勤務時間外を有意義に活用できます。バレーボール、テニス、野球などサークル活動も行っています。

病院見学ご希望の方は、お気軽にメールか電話でご連絡ください。随時ご案内いたします。

薬局直通 095-881-7900

E-mail kita-drug@shunkaikai.jp

担当 薬剤部 田平 潤

当院ではたらいっている卒業生より

羽山 加奈衣（2012年4月入職）

私は就職活動を行う際、病院か調剤薬局か絞れないまま地元で働きたいという気持ちだけで就職活動を開始しました。

2か月半の実習中にはどちらもそれぞれでしかできない経験をさせていただきましたが、いくつかの科にまたがって薬剤に触れることのできる病院と、患者さんと直接お話ができる機会の多い薬局とで選びかねていたのです。

しかし最終的にはやはり複数科を診療している病院で働きたいと思い、現在の長崎北病院を選びました。

最初の内は処方箋に書かれている薬を正しく取りそろえることもままならない有様でしたが、先輩方にフォローして頂きながら少しずつ成長してこられました。

また当院は病棟業務にも力をいれているため、就職活動の時に重要視していた患者さんとのコミュニケーションをしっかりとることができました。それによって一律の治療ではなく、個人の生活環境やニーズに沿った処方提案や調剤を行えることが薬剤師としてのやりがいになっています。

薬剤師は生涯研修の必要な職業です。今後もやらなければならないことをやりつつ、その中でもやりたいこと・やりがいを感じることを楽しみながら医療人として勉強していきたいです。

竹本 有里（2019年4月入職）

私が北病院を選んだ理由の1つとして、担当の業務を固定化しておらず1人1人が様々な業務に関われる環境にある事に魅力を感じた事が挙げられます。

病棟や薬局業務、注射やTDM、治験業務など沢山の業務に関われる事で薬剤師として医療に関われる嬉しさを実感しています。

また特定の専門分野の薬だけにとらわれず、幅広い分野の薬剤に関われる事に大学で学んできた事を多く活かせる喜びを感じています。

患者さんの検査値や基礎疾患などを総合して考える事で、副作用や不適切な処方に気づき疑義照会により処方が変わった時、薬剤師としての役割を果たせた事に嬉しさややり甲斐を感じます。

1年目から担当の病棟につき、他職種の方々と交流を持ちながら仕事をさせていただきました。患者さんの認知度合いや生活背景に応じて、患者さん、患者家族、施設スタッフなどと面談を行いますが、そこで得られる情報も多く、医師や看護師への情報提供を行うなど患者さんを取り巻く様々な人との“繋がり”を実感する毎日です。

薬剤部は優しい先輩方ばかりで恵まれた環境に有り難く感じます。まだまだ未熟で先輩方から教えてもらう事ばかりですが、そのような環境に感謝して進歩していきたいです。